



文部科学省21世紀COEプログラム 「情報通信技術に基づく未来社会基盤創生」シンポジウム

平成19年1月26日に教育文化ホール大ホールにて開催されました。飯田嘉宏学長による開会のご挨拶に引き続き、文部科学省、総務省、富士通研究所、KDDI研究所、韓国海洋大学からのご来賓より本プログラムの卓越した研究成果や教育効果、今後の期待などに関わるコメントとともにご挨拶を頂きました。拠点リーダの河野隆二教授から5年間に創出した世界に誇る成果と今後の発展に関して最終活動報告がなされました。また、フォトニックナノ構造光デバイスの

研究において世界をリードする馬場俊彦教授から研究紹介がありました。午後の部は「情報通信技術とグローバルな大学教育」と題してご来賓の方々に加え、渡辺慎介副学長、白鳥正樹教授などによるパネル討論が催され、活発な意見交換がなされました。各研究グループのリーダから研究活動の総括がなされ、國分泰雄工学研究院長の閉会の言葉により締めくくられました。

MICT 未来情報通信医療社会基盤センターのイベント

1 発足記念式典とパネル討論の開催 (平成18年6月14日)

横浜ランドマークホールにて参加者約250名を得て、発足記念式典が盛況裏に開催されました。飯田嘉宏学長のご挨拶に続き、ご来賓として情報通信研究機構長尾真理事長、横浜市立大ブラス・ストロナク学長、総務省松本正夫技術総括審議官、神奈川県石原祐志企画部参事、横浜市都市経営局佐竹隆大学担当理事から祝辞をいただき、センター長の河野隆二教授がセンターの概要を紹介しました。

第2部としてパネル討論「未来医療社会基盤プログラムの発進～医療ICTプロジェクトと社会からの期待・課題」を実施しました。各界から専門家・ジャーナリストの方々を招き、情報通信技術で創る未来医療の展望や期待について討論され出席者の好評を博しました。

2 2006国際医療ICTシンポジウムの開催 (平成18年12月1日・2日)

ICT(情報通信技術)を核とした最先端の科学技術と医療に関する国際的な情報交換と議論を行うことを目的に、

2006国際医療ICTシンポジウム「安心・安全の医療社会基盤を創る～先端情報通信技術と先端医学の連携(主催:横浜国立大学・横浜市立大学・情報通信研究機構)を横浜市立大学福浦キャンパスにて開催しました。3件の特別講演としてM. Marcus博士(元米国FCC)の医療ICTに関わる無線周波数の使用規則の国際的な動向、宗像義恵氏(Intel)の医療ICT分野での産業界の連携、砂川賢二教授(九州大学)の体内無線通信を利用する未来の医療技術、いづれも魅力的かつ示唆に富む講演があり、参加者から医療ICTについて認識を新たにしたいとの声も聞かれました。

初日は、国際学術研究集会として最先端の研究紹介と活発な討論が繰り広げられました。二日目は、特別企画として市民講座「CELシンポジウム～健康・安心・安全な社会構築に向けて」を開催しました。研究者はもとより、広く市民の方々とともに健康と医療、疾病予防などについて考える機会となりました。特別講演には脳科学者の茂木健一郎博士を招き、脳科学の最前線に関して豊かな話題を交えた興味深い講演が多くの聴衆を魅了しました。